

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリー・ジーザス・ニュース #335

イエスの復活と永遠の宣教

イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現

イエスの二度目の復活の出現：道行く女性たちへ

マタイ 28.9-10

=====

9見よ、イエスは彼女たち（婦人たち）に出会った。

「*ここにちは*」と彼は言った。

彼らはイエスのもとに来て、イエスの足を抱き、礼拝しました。

10そこでイエスは彼らに言われた。

「*恐れるのをやめなさい。むしろ、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように告げなさい。彼らはそこでわたしに会うだろう。*」

=====

注：私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します：マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、*赤いイタリック体*はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	空の墓からエルサレムへの道
タイムライン	4月上旬（39ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教

	イエスの復活と40日間の宣教
	イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現
タイトル：	イエスの二度目の復活の出現：道行く女性たちへ

DJN #333 のコメントで述べたように、今日のマタイによる福音書の朗読では、福音書の中で最も混乱を招く矛盾の 1 つが紹介されています。

問題は、空の墓を最初に発見した信仰深い女性たちのグループにイエスが現れた正確なタイミングです。マタイは、女性たちが使徒たちに空の墓のことを知らせ、天使からのメッセージを伝えるために旅をしている途中、イエスが一団となって女性たちに現れたことを示唆しているようです。

しかし、他の三つの福音書、特にヨハネ福音書は、マグダラのマリアが復活したイエスを最初に見た人物であると明確に述べています。さらに、女性たちが使徒たちに伝えたメッセージは、復活した主を見たというものではなく、天使からのメッセージでした。このことをどのように解釈すればよいのでしょうか。

この明らかな矛盾は 2 つの要因により生じました。

(1) これまでの朗読で述べたように、ヨハネの記述はイースターの朝に関わった唯一の女性であるマグダラのマリアに焦点を当てています。

(2) マタイはイエスが女性たちの前に現れた時間を短縮し、使徒たちに天使のメッセージを伝える途中であったかのように描写しています。実際には、女性たちが最初の報告を終え、マリアがペテロとヨハネと共に墓を去った後、空の墓へ戻り始めた後の出来事です。

聖書における節と章の区分は、原文には存在しなかったことを改めて忘れてはなりません。現代の学者やテキスト批評家は、もともと最初から最後まで空白も句読点もない、文字が途切れるごとなく流れていたテキストの解釈に基づいて、節を段落に分けています。

翻訳においてマタイ福音書28.9と28.8が同じ段落にまとめられている場合、これらの節の出来事は同時に起こったように見えます。しかし、マタイの文体の特徴として、時系列的な時間関係は考慮されておらず、テーマごとに記述されています。マタイの福音書には時系列に従わない出来事の順序の例が数多くあり、この2つの節はその好例です。マタイ福音書28.9の文法構造もこの見解を裏付けています。

したがって、多くの英訳聖書ではマタイ伝28章9節が28章8節の出来事と同時に起こっているように見えますが、原典のギリシャ語は必ずしもそうではなく、むしろ異なる解釈を示す可能性があります。そのような場合、他の福音書、特にマタイ伝よりも注意深く正確な時系列展開が見られる他の福音書の情報に頼らなければなりません。

したがって、この出来事が28.8とは異なる時期、つまり後になって起こったと解釈することは、マタイによる福音書の非年代順のスタイルと、マタイ福音書28.9のギリシャ語の解釈の両方に合致しています。そう解釈すると、このテキストは、私たちがDAILY JESUS NEWSで用いている順序に従って、他の福音書とシームレスに溶け合います。

イエスの二度目の復活は、マグダラのマリアに現れた後、天使からの最初のメッセージを伝えた後、マリアたちが屋上の部屋を出て、園の墓へと向かう道をエルサレムから戻った時に起こりました。ペトロ、ヨハネ、マリアが急いで立ち去った後も、彼女たちは使徒たちや他の信者たちとさらに交流を深めるために時間を割いていました。

空の墓に初めて同行したマグダラのマリアのように、私たちは過去の朗読の中で、これらの女性たちの勇気に気づきました。彼女たちはイエスに忠実であり、考え得る限りの最良の埋葬でイエスを敬うことに心を碎きました。天使からのメッセージを完全に理解していなくても、忠実に伝えました。使徒たちに伝えれば拒絶されることを承知の上で。彼女たちの愛が、彼女たちの従順さを促したのです。

それゆえ、イエスは二度目の出現において、男性たちに現れる前に、彼女たちにご自身を現されました。イエスは、ご自分を最も敬おうとする女性たちを尊び、女性に対する文化的な偏見を無視し、彼女たちをご自身の姿に似せて造られた人々、今や御父と和解し、三位一体の交わりの中で御父と一つになった人々として高められました。イエスは彼女たちを、ご自身が創造された王家の姉妹として扱われました。

この二度目の出会いにおいて、女性たちがイエスを崇拝したという事実は重要です。復活こそが、これらの女性たちのような保守的なユダヤ人たちに、キリストの神性を完全に認めざるを得なかつた理由です。イエスは、それが神としての永遠の本質にふさわしいものであったため、彼女たちの崇拝を受け入れました。主の11回の復活の出現において、ユダヤ人の弟子たちにとってイエスへの崇拝が規範となるのを見ることになるでしょう。

イエスはここでも弟子たちを「わたしの兄弟たち」と呼びました。数分前にマリアにそう呼びかけたのと同じです。十字架上での3度目の言葉で、母マリアと使徒ヨハネを靈的な息子と母とされた時、イエスはこのことを示されました。

さて、復活後、イエスは最初の二度の出現において、ご自身と神の家族における弟子たちとの一体性を強調されました。ヨハネによる福音書17章で、イエスはこの一体性を熱烈に祈られました。そして今、イエスは、ご自身の民との交わりの最初の瞬間に、それを新たな形で体験し、大きな喜びを感じられました。イエスは、三位一体の交わりの中で、私たちをご自身と一体にし、また、ご自身の家族の中で互いに一体にするために、死に、そして復活されました。

最終的に、この出来事はマタイによってのみ記録されています。イエスが再びガリラヤでの会合について言及されたのは偶然ではありません。イエスは、後にガリラヤで彼らに命じる任務（マタイ28:16-20）のために、彼らを準備させていたのです。マタイにとって、このガリラヤでの任務は、イエスの生涯の物語のクライマックスとなるものでした。

応用：

復活は、イエスの最初の弟子たちの信仰と神学を、私たちには理解しがたい方法で広げました。私たちは、復活、昇天、聖霊の降臨、新約聖書の完成、そして2000年のキリスト教の歴史を経て、イエスへの信仰を持つようになりました。私たちは、主の神性という福音の真理と、三位一体の真理を日々の糧として当然のこととして受け入れています。しかし、これらはイエスの最初の弟子であった1世紀のユダヤ人にとって、急進的で信じられないほど革命的な考えでした。

私たちの神学は、初期の弟子たちと同じように試練を受け、変化することはないでしょう。しかし、イエスの戒めに従うことは、初期の弟子たちがイエスの復活と三位一体の真理を受け入れるのと同じくらい、私たちにとって革命的で困難なものとなるでしょう。彼らと同じように、生けるイエスだけが、彼らを変えたように、私たちも変えることができるのです。

イエスの戒めに従うことがあなたにとって最も難しいのは、具体的にどのような分野ですか。

あなたは、完全な従順さが欠けていることを、自分にとって避けられないこととして受け入れてきましたか？

イエスの復活の力を見ることで、あなたはどのように情熱的に、完全に従順になるよう励まされるでしょうか。それは、あなたのため命を捧げられたイエスの模範の力とどのように関係しているでしょうか。

来年、あなたはイエスにどのような新しい、あるいは新たな従順を捧げますか？